



## 臨床研修病院としての役割

地域の中核病院としての機能を有する当院において、最新の医療技術及び情報を提供し、病院全体として医師の臨床研修を積極的に支援する

## 初期臨床研修の理念・基本方針

### 理念

プライマリ・ケアから高度な医療まで幅広い経験を積むとともに、様々な医療従事者と密接な連携のもとで多くの患者に接することにより、医師として必要な人格を育み、広く社会の医療福祉に貢献できる人材を育成する

### 基本方針

- ①臨床医として必要なプライマリ・ケアの基本的な診療能力（知識・技能・態度）を習得する
- ②人として信頼される人格・素養を身に付け思いやりの心を持って患者およびその家族に向き合い患者中心の全人的医療を行える
- ③チーム医療の一員としての役割を理解し、多職種と協働して診療することができるコミュニケーション能力を身につける
- ④医療安全の本質を理解し、実践する能力を身につける
- ⑤地域の中核病院としての役割を理解し、健康の保持、疾病の予防から社会復帰に至る医療全般の責任を有することを自覚し、行動できる



### 病院長 久留 一郎

新年あけましておめでとうございます。

今年は午年です。古くから馬は神の使いとされ、その力強く前進する姿から、発展・成長・努力の実りの象徴とされてきました。新しい一年が午年にふさわしく、皆さんにとって大きな飛躍と実りの年となることを心より祈念いたします。私自身振り返ってみますと昨年は、毎週金曜日の症例報告会、マツケンサンバ、そして緩和ケア研修会などを通じ、研修医の皆さんと短い時間でも一緒に活動ができました。慣れない業務や大きな責任に不安を抱えながらも、一步一步確実に成長していくみなさんの姿を間近で見ることができたことは、私にとって大きな喜びでした。なかでも印象深かったのは、緩和ケア研修会で「進行がん患者さんへの病名告知」のロールプレイの場面です。

厳しい現実をどのように伝えるべきか、また患者さんの反応にどのように向き合うべきか・・・予測できない課題の前で、ロールプレイに参加している私自身もどのように対処すべきか悩みました。そしてグループでの意見交換の中で、皆さんも同じ悩みや不安を抱えながら真剣にこの課題に向き合っていたことがわかり、とても共感しました。医療の現場では、このような予測不能な事態が次々と起こり得ます。教科書で勉強した通りに事が運ぶことの方がむしろ稀であり、「正解のない課題」に向き合う連続こそが、医療者としての道だと思えます。大きなストレスを感じますが、そのたびに私が思い出す言葉があります。それは米国の神学者ラインホルド・ニーバーの言葉です。

「変えられないものを受け入れる心の静けさと、変えられるものを変える勇気と、その両者を見分ける英知が必要である。」  
答えのない課題や状況に直面したとき、自分の診療知識や技術の限界を知り、必要と判断した時は周囲に協力を求めることは医療者としての重要な力です。困ったときは声を発し、相談し、チームで解決していくことで、はじめて私たちは患者さんに最善の医療を届けられることができると思います。一方で患者さんの課題には変えることが出来ないものがあります。"Life is short, death is sure (人生は短く、死は確実にやってくる)"と言われます。そのようなときに患者さんや家族がいかに思い残すことなく過ごしてもらおうかを考える必要があり、これも難しい課題です。

以上のことを含めて午年のこの一年が、皆さんにとって学びを深め、人としても医療者としても大きく前進する一年となることを願っています。本年もどうぞよろしくお願いたします。



# 院外研修に行ってきました特集!



島根大学医学部附属病院

隠岐島前病院

2年次研修医 黒田 町子

島根大学皮膚科、隠岐島前病院で研修をさせていただきました!

島根大学皮膚科ではアレルギー・免疫疾患から手術、病理まで皮膚科診療の幅広さを感じました。特に印象に残ったのは病棟で担当させていただいた小児の急性期熱傷でした。創部を毎日観察し状態に応じて軟膏を使い分けたり、処置時に丁寧に声かけをしながら鎮痛鎮静を活用し、痛みによる恐怖心を与えないように配慮されていたりなど治療の様子から多くを学ぶことができました。

島前病院では外来・病棟診療に加え、他職種や介護施設、隣の島の診療所など研修をさせていただき島前全体の医療に触れることができました。これらの研修を通してチーム医療について考える良い経験になりました。例えば、病棟リハビリでは患者さんがマッサージや歩行、食事介助を受けてとても嬉しそうにされている様子が印象的でした。身体機能の維持・向上だけではなく、リハビリが患者さんの直接的な心の支えとなる大切な役割を担っていることを実感しました。

研修を受け入れてくださった病院のみならず、また調整いただいた診療支援室のみならず、本当にありがとうございました。今回の研修で得た気づきを活かして、今後の研修も引き続き頑張ります。

鳥取大学医学部附属病院

2年次研修医 森脇 友璃子

当院の研修プログラムでは、2年次に院外研修を選択することができます。

3年目以降の進路も見据え、鳥取大学の女性診療科と乳腺外科を1ヶ月ずつローテートしました。

いずれの科でも、特有のエコー手技や診察手技、手術手技などを練習・実践したり、周期や化学療法中の管理で注意すべきことを学んだり、科内の抄読会で発表したりと、初めて経験することが多くありました。最初は慣れない環境に戸惑ってしまいましたが、常に丁寧に指導して下さる先生方のおかげで、安心して充実した研修を行うことができました。

同時に、3年目～5年目の先輩医師が奮闘して働いている姿を見られたのも大学研修ならではの利点であったように思います。私は大学での研修前は進路に迷っていましたが、自分の近い将来のイメージが明確になり、進路を決定することができました。

2ヶ月間の研修中にお世話になった各科の先生方、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

松江赤十字病院

1年次研修医 小川 翔大

松江市立病院では1年目に1か月間松江赤十字病院(以下日赤)で研修を行うことができ、3次救急患者の診察や2次救急患者の診察についてより多くのことを学ぶためにこの研修を選択しました。業務としては救急外来で割り振られた患者のファーストタッチや重症患者の診療の補助が主となっています。研修初期のころには緊急性の高い患者から1人ずつ丁寧に診察を行い上級医の先生方に相談しながら身体所見の取り方や検査オーダーの立て方について学びました。自分ではわかっているような症候でも細かいところや抜けている鑑別疾患について一つ一つ丁寧に指導していただきました。一過性意識消失やめまい、原因不明の発熱が難しくどの検査をどんな目的をもって行うかを患者ごとに決めることがとても難しく感じました。同じ症候の患者を何例か積むにつれてある程度イメージをつかむことができましたが、今後も勉強を継続し経験を積み重ねていくことが必要であることを改めて実感しました。印象に残っている症例としては腹痛の症例です。腹痛には頻度の高い便秘症や胃腸炎のほか緊急性の高い疾患として重症の感染症や消化管出血、虚血性腸疾患がありそれらは区別がつきづらいことも多くあります。虚血性腸疾患について軽症例と重症例のどちらも経験しましたが、症状や血液所見だけではなく治療中の疾患や内服状況についても注意して問診をする必要があることを改めて実感しました。また救急外来で確認しなければならない疾患の知識に加え、上級医の先生への報告の仕方や伝える内容についても多くのことをご指導いただきました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。今回の研修では救急外来患者の診療のポイントや、医師としての基本について多くのことを学びました。この研修を糧に努力を重ね、医師としての責任を果たしていきたいと思っております。

飯南町立飯南病院

2年次研修医 田部 主山

8月の1か月間、飯南町立飯南病院にて地域医療研修をさせていただきました。

飯南町には5か所の医療機関がありますが、民間のクリニックは歯科医院を除くと存在せず、入院治療ができるのも飯南病院のみです。

急性期から慢性期まで幅広い疾患をもつ患者さんの対応を学びました。一般外来だけでなく、時間外・救急外来における診療においても、治療やフォローの仕方は松江市立病院のそれとは違った対応が求められました。当直業務は、基本的に指導医の先生と当番看護師の方との3人での対応となり、人生初のCT撮影も経験しました...!(松江市立病院では診療放射線技師の方に撮影していただきます)研修中には飯南病院から医師が毎週派遣される出張診療所でも外来診療を経験しました。へき地における限られた人員・資源で最大限の治療を施す熱意を感じられる1か月となりました。飯南病院の職員の皆様や飯南町民の皆様に感謝申し上げます。

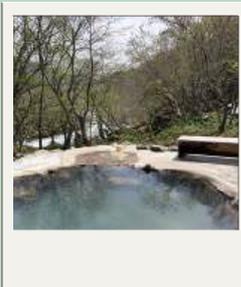
知床らうす国民健康保険診療所

2年次研修医 吾郷 貴大

5月の1ヶ月間、北海道の知床らうす国民健康保険診療所で地域医療研修をしてみました。まだ雪の残る中標津の空港から路線バスで北上すること2時間、右手に日本海、左手に知床の山々を見た時の高揚感が今でも思い出されます。

羅臼町は、世界自然遺産として有名な知床半島の南東に位置する漁業が盛んな地域です。自分は島根県出身で、今後も県内での医療従事を目指していることもあり、此度の研修は県外の地域医療を経験できる貴重な機会でした。

診療所での研修は、外来診察、各種検査の実施、入院患者さんの診察、施設回診や訪問診療への同行、救急搬送への同乗と様々な経験ができました。外来診療では数多く初診を担当させていただきました。マダニ咬傷や指先の怪我の診察、処置にあたる機会が島根県内での研修に比べて多く、地域によってcommon diseaseは少なからず変化しうるということを感じました。地域に根ざした医療を提供するということは、単に自分の専門知識や技術を活かすだけではなく、地域の特色を把握し、そこで必要とされる知識や技術を日々追及する姿勢が求められるのだと、故郷から遠く離れた土地での研修でより実感できたものと思います。救急搬送への同乗も貴重な経験でした。診療所から中標津町の二次救急病院、釧路市の三次救急病院までの距離は、島根県でいうとそれぞれ松江市から大田市、松江市から益田市までの距離に相当します。患者さんへの負担、必要な資源など総合的に考えて搬送実施の判断を下すことは、医療連携についてこれまで自分が抱いていたスケール感を覆すものでした。この責任感を自分も背負えたらと思います。休日は、担当患者さん紹介の野湯や、診療所職員の皆さんに教えていただいた羅臼町内外の食事処、観光スポットでリフレッシュできました。最後にCTですが、木島先生をはじめ指導を賜りました診療所の皆様、研修手配いただいた市立病院の皆様にも心より感謝申し上げます。



北海道の  
思い出の写真



# お世話になりありがとうございました



## 鹿島病院

2年次研修医 佐々木 一帆

地域医療研修として鹿島病院での1ヶ月間、大変お世話になりました。急性期病院では「病気の治療」が最優先されますが、今回の研修を通じて、患者さんが住み慣れた地域や自宅に戻るための「生活の再構築」を支えることの重要性を感じることができました。特に印象に残ったのは、入院時、入院中、退院前と節目ごとに開催される多職種カンファレンスです。医師だけでなく、看護師、リハビリスタッフ、MSWがそれぞれの専門性を活かして意見を出し合い、患者さん一人ひとりのゴールに向かって一丸となる姿にチーム医療のあるべき姿を学びました。また、訪問診療や訪問看護にも同行させていただき、退院後の実際の生活環境を知ることで、入院中に行うべき支援の具体像がより明確になりました。現場で患者さんの生活背景に触れ、患者さんやご家族の視点に立つことの重要性を改めて実感しました。

今回の研修で学んだことを今後の医師人生においても大切にしていきたいと思っております。温かくご指導いただいた先生方、スタッフの皆様へ心より感謝申し上げます。

## 町立奥出雲病院

2年次研修医 森脇 友璃子

9月に町立奥出雲病院にて地域医療研修をさせていただきました。奥出雲町は島根県の東南端に位置し、広島県および鳥取県と県境を接する町です。ヤマノオコチ退治神話やたたら製鉄、棚田で作られる仁多米、ホッケーなどで知られています。たたら製鉄を起源とした持続可能な農林畜産業の価値が評価され、今年、世界農業遺産に認定されました。このような奥出雲町の歴史や文化、自然に魅力を感じたことに加え、エコーの練習や訪問診療を経験したいと考え、研修先として選びました。

奥出雲病院では総合病院としての役割にとどまらず、訪問診療や町内の診療所への医師派遣を通じて、町全体の医療を支えています。研修では、一般外来の初診や再診、救急外来、入院管理、訪問診療に加え、外科手術にも参加するなど、様々な経験を行うことができました。設備が限られ、常勤医師も少ない中で、豊富な経験と知識を持った先生方が「何でも診る」姿勢で地域医療に向き合っておられることに、深い感銘を受けました。一方で、診療科がそろっており、専門科についてもコンサルトできる松江市立病院の環境は、非常に恵まれているのだと改めて実感しました。

多様な症例を経験して、毎日指導医の先生方から熱意あるご指導をいただき、刺激的な一ヶ月間を過ごすことができました。奥出雲病院を研修先を選んで本当によかったです。この度は大変お世話になり、ありがとうございました。

## 隠岐病院

2年次研修医 久野 佑介

2025年4月1日から28日まで隠岐の島町(島後)にある隠岐病院で研修をさせていただきました。4月はまだ肌寒く、桜も2分咲きと満開とまではいきませんでしたが、天候には恵まれた日が多く、比較的過ごしやすい環境のなかで研修を行うことができました。

隠岐広域連立隠岐病院は病床数117、診療科数17有する隠岐地域の中核病院であり、島民のニーズに答え改革をすすめてきた病院である。内科は総合診療内科として幅広い疾患の急性期から慢性期、終末期まで診療を行っており、外科も常勤で整形外科はありましたが、他専門科は限られた状況でありました。そんな限られた医療資源、医療環境の中で、医師、看護師などの医療スタッフが協力し合い、奮闘しながら、地域の医療を支える様子が印象的であり、チーム医療の重要性を感じることができました。

患者層は独居の高齢者が多く、頼れる身内は本土在住という場合も多かったです。地域住民の多くが自分のことはできるだけ自分でしたい、最後の時まで生まれ育った隠岐で過ごしたいという希望を強く持っていました。離島の医療は本土の地域医療とはまた違っており、陸続きであることと、海を隔てられることは人の往來の条件が大きく変わります。本土に搬送となれば、治る可能性もあるが二度と島には帰れないという可能性も存在しました。そういった点でも離島医療は難しい選択の連続であったと感じます。診療では一人一人の生活背景を踏まえた包括的なかわり方が求められ、ただ単に患者さんの病気を診るだけでなく、その人の暮らしや希望を支える視点が重要だと学ぶことができました。

隠岐病院の先生方、スタッフの皆さんには病院内だけでなく、歓迎会や食事にも何度か連れて行っていただき、大変お世話になりました。隠岐の島といえば、岩ガキが有名であり、1か月の研修期間中に食べる機会に恵まれました。島民の方曰く、隠岐の岩ガキにあたることはないそうで、生ガキを最も勧められ、食事会のたびにおいしくいただきました。機会があればまた食べに行きたいなと思います。

本研修で関わってくださったスタッフの皆さんおよび島民の方々に、貴重な経験をさせていただきました感謝申し上げます。この研修で学んだことを今後の臨床現場で生かし、患者さんに貢献できる医師を目指していきたいと思っております。

## 大國内科クリニック

2年次研修医 佐々木 一帆

一般外来研修として、大國内科医院にて1ヶ月間お世話になりました。初日からスタッフの皆様が非常に温かく迎え入れてくださり、安心して研修に臨むことができました。時期的にインフルエンザワクチンの接種シーズンと重なり、数多くの手技を経験させていただきました。

普段勤務している松江市立病院は二次救急・二次医療機関であり、主に「紹介を受ける」立場にあります。しかし、今回の研修を通じて、一次医療機関が多くのお患者さんの受け皿となり、適切な診断・治療を行うことで、二次医療機関への受診集中を防ぐ「ゲートキーパー」としての重要な役割を担っていることを肌で感じました。実際に、研修期間中に数名のお患者さんを病院へ紹介する場面にも立ち合わせていただきました。どのような判断基準で紹介を決定し、どのようにバトンをつなぐのか、その流れを実地で経験できたことは、今後の診療において、病診連携を円滑に行うための大きな財産となりました。温かくご指導いただいた先生方、スタッフの皆様へ心より感謝申し上げます。

## たにむら内科クリニック

2年次研修医 元上 俊太郎

7月の1か月間、たにむら内科クリニックで一般外来研修をさせていただきました。

たにむら内科クリニックでは上部、下部の内視鏡検査、内科疾患の定期フォローや急な発熱、健診まで幅広い業務を経験させていただきました。研修の中で、健診や定期フォローでの疾患予防の重要性を学びました。1日の来院患者数は非常に多い中でも、患者さんとのコミュニケーションは欠かさず、ワクチンや健診の提案をしているのが印象的でした。

また、医療には予防医療を通して地域の健康を全体として向上させる役割があると再認識できました。

今回ご指導いただいた谷村先生をはじめ、クリニックの皆様へ心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



ACP研修会

令和7年度ACPを開催しました。本研修では患者さんの価値観や希望を尊重しながら人生の最終段階に向けた意思決定を支えるための考え方を学び、ACPについて理解を深める大変有意義な時間となりました。



病院長とおひるごはん

院長先生に研修医向けの勉強会を開催していただきました。お昼のお弁当を囲みながら和やかな雰囲気の中で多くの学びを得ることができました。また、情報交換や交流を深める良い機会となりました。



しまね研修ナビに参加

しまね研修ナビに参加してきました。当院の初期研修の魅力や雰囲気をお伝えすることができ、とても充実した楽しい時間となりました。ブースに来てくれた学生のみなさんありがとうございました。

# 学会・セミナーに参加してきました！

## 2年次研修医 森脇 友璃子

5月10～11日のPlus One Project 2 (POP2)、5月24～25日の第77回日本産科婦人科学会学術講演会、6月14～15日の第13回日本婦人科ロボット手術学会に参加してきました。POP2は研修医2年目向けのハンズオンセミナーで、産婦人科に興味のある研修医2年目が全国から集合し、先輩医師から産婦人科の仕事や魅力を学ぶ機会です。自分と同じように産婦人科に進むと決めている/迷っている研修医と交流し、大いに刺激を受け、自分ももっと励まなければと思いました。また、学会では、若手医師の育成についてをテーマとしたセッションが複数あり、ロボット手術が当たり前になってきた時代に求められる変革は大変興味深いと感じました。こうしたセミナーや学会に参加し、改めて産婦人科をローテートし、来年からは産婦人科に進むことを決めました。



## 1年次研修医 長尾拓映

この度、初期研修医の新人賞枠として、日本超音波学会第61回中国地方学術集会に参加し、初めての学会発表をさせていただきました。発表のテーマは好酸球性多発血管炎性肉芽腫症に好酸球性心筋炎を合併した1例です。日頃ご指導いただいた指導医の先生方のご尽力により、自信を持って発表に臨むことができました。この場を借りて心より感謝申し上げます。発表当日、壇上での口頭発表は大変緊張しましたが、多くの先生方から建設的なご質問や貴重なご意見を頂戴し、知的好奇心と責任感が同時に刺激されました。特に、エコー画像を見た際の「なぜこの所見が出たのか」「次に何をすべきか」といった本質的な問いかけは、自身の知識不足を痛感させるとともに、超音波医学の奥深さと可能性を改めて感じさせてくれました。他の先生方の発表を拜聴する中で、超音波が単なる画像診断ツールではなく、治療方針の決定や経過観察において重要な役割を果たすか、その最新の知見に触れることができました。特に、日常の診察で「なんとなく」見ていたエコー所見が、実は診断を左右する重要なキーポイントであったことに気付かされました。今回の経験は私にとって大きな成長の機会となりました。学会発表という形で自分の診療を振り返り、論理的にアウトプットすることの重要性を学びました。今回学んだ新しい知識と、いただいた熱いフィードバックを糧に、今後も日常診療において超音波検査を積極的に活用し、質の高い患者ケアに貢献できるよう、日々精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 1年次研修医 ジルバーミンツ日奈子

鳥取県米子市で行われました山陰呼吸器臨床セミナーにて「β-D glucan陽性を認め、真菌感染症と鑑別を要した器質性肺炎の一例」について発表させていただきました。今回の症例はβ-D glucan高値という検査所見から真菌感染症との鑑別に苦慮した症例でした。画像所見や臨床経過を慎重に検討し、最終的に器質性肺炎と診断するに至った過程は、私にとって大変貴重な学びとなりました。発表準備を通じて、鑑別診断の重要性や検査結果の解釈について、改めて深く考える機会をいただきました。この度の症例発表に際しまして、ご指導くださいました呼吸器内科の先生方には大変お世話になりました。症例検討の段階から発表資料の作成、プレゼンテーションに至るまで、丁寧にご助言をいただき、心より感謝申し上げます。今回の経験を糧に、日々の診療と学習に精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 1年次研修医 新宮千陽

この度、山陰呼吸器臨床セミナーに参加し、「臍瘻治療中に非結核性抗酸菌症と器質性肺炎を合併した一例」について発表させていただきました。初めて学会形式での発表で大変緊張しましたが、終始和やかな雰囲気の中、貴重なご意見やご質問をいただき貴重な機会となりました。また、他院の研修医の発表からは臨床で直面する困難や、日々奮闘されている様子が伝わり私も身が引き締まる思いでした。症例のプレゼンテーションのまとめ方や、スライドの視覚的な工夫も大変参考になりました。

今回の症例発表にあたり、ご指導いただいた呼吸器内科、病理診断科の先生方には大変お世話になりました。またこのような機会を与えてくださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

## 1年次研修医 水野紅桃子

山陰呼吸器臨床セミナーにて、Sjogren症候群に合併する間質性肺炎について発表させていただきました。初めての症例発表で緊張して会場に向かいましたが、当日は大変和やかな雰囲気、他院の研修医の方々の発表も学会形式の学術的なものからエンターテイメント性を交えたものまで幅広く、楽しく参加させていただきました。準備の過程では、自己免疫疾患に伴う間質性肺炎の病態や治療法、発表資料の構成、質疑応答への対応などにさまざまな点で多くの学びを得ることができ、大変貴重な経験となりました。

今回の発表にあたりご指導いただきました呼吸器内科、病理診断科の先生方に心より感謝申し上げます。今回学ばせていただいたことを今後の研修や発表の機会に活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。



## 今後の主な予定

1月21日	卒後臨床研修評価機構更新訪問調査受審
1月22日	基本的臨床能力評価試験
1月29日	第6回松江研修医3病院のつどい場 (マツケンサンバ)
2月13日	第2回臨床研修医合同研修会

## 当院で初期研修を修了された先生方へ お願い

当院で初期研修を修了された先生方の名簿を診療支援室で管理しております。勤務先等に変更があった場合は診療支援室のメールアドレスまでお知らせいただきますようお願いいたします。

診療支援室のアドレスはこちら  
[isisien@matsue-cityhospital.jp](mailto:isisien@matsue-cityhospital.jp)



## 病院見学随時受付中！お待ちしております



「初期臨床研修医募集サイト」の病院見学申込みフォームからお申し込みください

こちらからどうぞ！



<https://recruit.matsue-cityhospital.jp/resident/>



※学生の皆様のご希望に沿って日程調整を行い、一人ひとりにあったオーダーメイド感覚で見学内容を計画していきます。基本、研修医と一緒に行動していただきます！



Facebook



みなさんの

フォロー



いいね！



よろしくお願いします！

Instagram



松江市立病院  
Matsue City Hospital

発行者/松江市立病院 病院長

〒690-8509  
島根県松江市乃白町32番地1  
TEL (0852) 60-8000 (代)  
FAX (0852) 60-8005

編集/診療支援室